

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	花梨の郷
(ユニット名)	一階
所在地 (県・市町村名)	千葉県花見川区千種町111-1
記入者名 (管理者)	吉田 薫
記入日	平成 21年 2月 24日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作り上げている。	○	毎日の朝礼・夕礼の場で理念を復唱し、会議の場でも話し合う事で理念を共有化し、実践に向け取り組み続ける
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼で理念の実践に向けて復唱し会議の場でも話し合う事で実践に向け取り組んでいる。	○	今後も継続していく。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族には普段の面会時や家族会の際に地域の中で暮らし続ける事を大切にしたい理念をお知らせする機会があるが地域の人々に対してはアピールできていない。	○	運営推進委員会を行う事で自治会や地域との交流をもっと深め、理解して頂けるよう取り組んでいく。また、自治会の発行している広報誌も活用していく
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者が地域の中で馴染みの関係が出来るように毎日の散歩や近所への買い物を利用している。行事の際には近隣へのお誘いのお手紙を出している。	○	今後もより一層近隣の方達との交流を深めて行きたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内マラソンの応援や自治会の盆踊り、秋祭で御神輿が出る際には沿道で応援をしている。その際には近隣の方々と楽しく交流することが出来ている。元日には地元神社に初詣に行き、焚き火を囲んで近隣の方々と、自治会の方手作りの豚汁をご馳走になったり、お酒を頂いたりしながら交流を楽しむのが恒例になっている	○	今後はもっと積極的に地域活動に参加する機会を多くすることにより、ホームの理念を地域に理解してもらえるよう努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	散歩中に顔なじみになった方等には行事の際、お誘いをさせて頂いている。また、大きな行事ではなくとも、お花見やパン教室等の企画の際にもお誘いして、何度か参加して下さっている。	○	地域の一員として認めて頂けるよう取り組んでいく。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の改善点などを会議の場で話し合う事で日々のケアに反映している。外部評価の実施により介護への再認識を感じている。	○	今後もより一層、入居者や家族が安心して生活を楽しめるよう取り組んでいきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は取り組めていないが、運営推進会議の予定をしている。	○	運営推進会議に取り組む事が利用者や家族の安心に反映されるので、早急に開催したい。現在、連絡調整中である。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月1回相談員の受け入れを行っている。介護相談・受け入れ事業所の意見交換会にも出席している。不明な点等も市に相談しサービスの向上に取り組んでいる。	○	今後もサービスの向上の為、他施設や関係機関との連携に努めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族から希望のあった方については、支援させて頂いている。	○	今後はもっと地域権利擁護事業や成年後見制度についての知識を深め、必要な利用者に役立てたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての資料を申し送り等で回覧したり会議で話し合う場を設け虐待が見過ごされないように努めている。	○	今後も、虐待を起こさないよう、またそれを見過ごさないよう努めていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時以外でも随時行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も入居者や家族の不安・疑問解消に努めていきたい</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時には家族だけのお時間を大切に考え、快適に過ごしていただけるよう配慮している。面会後には、近状報告を兼ね、職員と家族が話し合う事で利用者の意見、不満、苦情の軽減につなげるよう努めている。また、情報は連絡ノートを活用して共有している。管理者や職員は個別ケアを通じて直接、意見不満を引き出せるよう機会を設け取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の月次報告で利用者の暮らしぶり等を写真付でを報告している。身体的な変化や服薬変更などについては随時電話連絡も行っている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時には、家族が話しやすい雰囲気作りに努め、職員側から近状報告などの話しかけを行うようにしている。家族から意見などを言ったださる事もある。内容は職員間の連絡ノートを活用している。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続し、家族が気さくに話せる雰囲気作りをしていきたい</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>会議の場を通じて話し合ったり、運営者や管理者と一緒に仕事をしたり、食事をしたりする機会を通じて、少しでも気さくに話し合える場を設けている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の状況に応じて必要な時間帯に職員を確保したり、勤務調整をしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も継続していく</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者や職員の働きやすい環境や要望に答えられる面はなるべく対処しているが個人的、身体的な理由により離職はあるのが現状である。また、入居者と職員との馴染みの関係が築けるよう、職員をフロア固定制に変更した。</p>	<p>○</p> <p>今後も、少しでも入居者が安心できるよう配慮していきたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○	管理者は研修を受ける機会が与えられていたが職員は離職が多くて与えられる機会がなかった。研修参加者による会議での発表はしている。また、施設内では1ヶ月間の同行研修があり段階に応じた育成の機会が設けられている。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	グループホーム協会に参加し同業者と交流し勉強する機会が持てた。近隣のグループホームへ畑で収穫した野菜を差し入れに行ったり、先方の行事に招待して頂いたり、と相互訪問を通じて入居者の楽しみの多様化・職員の質の向上に向けた取り組みをしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○	休憩時間は現場から離れてゆっくりくつろげる環境を作っている。場所も特定だが喫煙は自由に行える。希望休も取り入れてストレスを軽減してもらっている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○	3ヶ月に1回の査定を行い、その際には勤務態度や努力実績により給与に反映させている。皆勤手当や会議手当もありやりがいや向上心を持って働けるように努めている。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	見学や事前相談・面接の際に本人からも聞き取りを行うことによって、困っていることや不安に思っていること、求めていることを聴く機会を作り、その気持ちを受け止める努力をしている
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○	見学や事前相談・面接の際に聞き取りを行うことによって、困っていることや不安に思っていること、求めていることを聴く機会を作り、その気持ちを受け止める努力をしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様の状況をお聞きし、グループホーム入居という道でなくても何らかのケアがあれば、在宅で暮らせる可能性がある方についてはあんしんケアセンターを紹介したり、別の介護サービスがあることを伝え選択の幅を少しでも広く持てるよう支援している。	○	必要としている支援を見極め対応していきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当日ではなく、安心して納得の上入居できるよう、事前の荷物搬入の際等に可能ならば家族と一緒に本人にも同行して頂き、職員や他入居者と過ごす機会を設けることで、少しでも場の雰囲気に慣れて頂けるよう配慮している	○	今後も、少しでも本人が安心できるよう配慮していきたい
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、趣味や特技を活かせる場面作りをすることにより、入居者自身から教えて頂いたり、支えあう関係作りをしている。その為に必要な生活歴等の背景情報や会話・ふれあいの中からの情報を職員間で共有し、場面作りやケアに反映させている	○	今後もより一層、ひとりひとりの入居者が主役になれるよう努力していきたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と共に入居者を支えるチームの一員として協力し合える関係作りの為に、報告や相談を行っている	○	家族が気さくに何でも話せる関係作りに努めていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族からのお手紙という形で企画の一端を担って頂いたり、外出企画に家族も同行して頂いたり、本人と家族の関係がより良く継続出来るよう支援している。また、生活していく中での変化を随時報告することで情報共有を図っている。面会時間も午前8時～午後9時までは自由に出来るようにしている。外出も外泊も自由。家族の宿泊も受け入れている。	○	家族との関係が途切れることのないよう、より一層努めていく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで大切にしてきた馴染みの人との交流や手紙交換・電話・外出・外泊も自由に出来る。本人が望む場合には家族と協力し、墓参りや旅行にも行っている	○	今後も継続していく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日常生活や企画(パン教室やうどん作り等)を通じて、入居者同士が支えあい、関わり合っている	○	より一層、企画の充実を図っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了し、他施設に移られた方でも、面会へ行っている	○	今後も継続していく
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話やふれあいを通じて、本人の意向を汲み取る努力をしている	○	これからも意思表示が難しい方でも諦めることなく、会話やふれあいを通じ、少しでも本人の意向を汲み取れる様努力を続けていく。どうしても難しい場合には、家族と相談の上、その方の気持ちに近付けるよう努めていく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等の情報を申し送りノートを活用し、職員間の情報共有を図っている。家族や前のケアマネージャーと連携し、把握に努めている	○	今後も継続していく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい過ごし方や有する能力の見極めを職員との関わりの中で把握している	○	今後も継続し、少しでも出来ることを探っていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際、職員から意見を収集したり、話し合いをしてアイデアや取り組みを反映している。家族からの意向も面会時等を利用し反映している	○	これからも色々なアイデアや気づき、取り組みを介護計画に反映させていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に実施期間を明示し、期間が終了する際には見直しを行っている。また、変化があればその都度、関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している	○	今後も日々のふれあいの中から状態の変化を把握し、それぞれの意見や取り組み・アイデアを介護計画に反映させていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者ひとりひとりの日々の様子をケース記録に残しており、勤務前には必ず目を通すことで小さな情報でも共有し、実践や介護計画に反映している	○	今後も継続していく
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在のところ出来ていない	○	地域のケアマネジャーとの交流や関係作りをしていく事により他のサービスを利用する為の支援をしていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の意向や必要性に応じて、高齢福祉課に相談したり、ボランティアを紹介して貰っている。警察署には入居者が行方不明になった際の相談をさせて頂いたり、近隣の保育所との交流やふるさと農園の利用もさせて頂いている。避難訓練の際には必ず消防署員に来て頂き、花梨の郷を知って頂くと同時に、注意すべき点等を指導して頂いている。	○	より一層、関係を深め連携をとっていきたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問リハビリ・訪問理美容・訪問歯科・訪問看護を利用している	○	今後はより一層、他サービスとの連携をとっていきたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今のところ出来ていない。	○	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つことにより、必要な方に支援できるようにする為、運営推進委員会を早急に発足し、指導を仰いでいきたい
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を適切に伝え、連携し対応している。必要があれば、家族と医師の話し合いの場を調整している	○	今後も継続し、本人や家族の意向に配慮しながら、適切な医療が受けられるように支援していきたい



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	近隣の診療所・総合病院と連携協力を結んでいる。また、診療所の医師は認知症にも詳しく、気軽に相談でき、往診もして下さる	○	更に連携を密にし、入居者・家族の不安解消に努めていきたい
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの看護師が週一回訪問することにより、馴染みの関係が出来ている。また、心身状態に変化や気がかりなことがある場合には主治医と連絡・連携をとってくれている	○	更に連携を密にし、サービスの向上に努めていきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際には、必ずお見舞いに行き、状況把握や退院後の生活について病院関係者や家族と話し合いの場を設けている	○	更に連携を密にし、入居者・家族の不安解消に努めていきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護ステーションとの医療連携により、重度化した場合の支援は具体化している。また、入居契約の際にも心身状況が悪化した時のこちらで出来る具体的な内容についての話をしており、必要がある際には、主治医・家族・職員とで今後の方向性や注意点・緊急時の対応について繰り返し話し合いの場を設けており、職員にも情報共有出来ている。	○	入居者・家族の不安解消に努めていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療面では、ホームで対応出来ない部分が多いが、主治医・家族・職員・訪問看護とで話し合いを重ね、少しでも安心して快適に暮らして頂けるよう、チームとして支援に取り組んでいる。どのような症状の時には何処に連絡し、指示を仰ぐか・何処に搬送するか等、緊急時に備え、職員一同情報を共有している。	○	更に連携を密にし、入居者・家族の不安解消に努め、チーム一丸となりその方の看取りをしていきたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居の際には、家族だけでなく移転先の施設関係者と直接連絡を取り合い、情報交換を行っている	○	今後も継続していき、移り住むことでの不安や混乱を最小限にとどめられるよう支援していきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>今後は会議の場での振り返りだけでなく、研修や他施設との意見交換会などに参加して貰う事で意識を高めていく</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	<p>今後も生活の様々な場面で自然に自己決定が出来るよう配慮を続けていきたい</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>今後も、入居者のペースに合わせた急かさない言葉かけや、待つことの大切さについて随時職員に伝えていきたい</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	<p>出来る限り希望に添えるよう対応していきたい</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>今後も継続していきたい</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>今後も継続していきたい</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをチェック表に記載し、大まかに把握している。随時さりげない言葉がけを行っている。強要したり、せかしたりはしない方針で、個々に合わせた誘い方をしている	○	今後も継続し、少しでもパット内ではなくトイレでの排尿が出来るよう配慮していく。しかし、パットを濡らさないということだけを重視し、トイレ誘導だけで1日が終わることのないよう十分配慮し、気持ちよく過ごして頂けるよう努める
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じていつでも入浴出来る様支援している。本人の希望で毎日入る方もいれば、1日おきに入る方もいる。入ったことを忘れ、1日に2度入る方もいる。(心身状態により、本人に納得して頂き、入浴を勧める場合もある)入浴拒否が強い方については、無理強いする事無く、原因を探り様々な対応を試みたり、ご家族様に協力を御願ひし、面会時や定期電話の際にさりげなく誘って頂く等の対応をしたりしている。	○	本人の自己決定を支援していく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日には散歩にお誘ひし、季節を感じつつ気分転換が図れるよう配慮し、自然と日中の活動量を多くして夜間ぐっすり眠れるよう工夫している。なかなか寝付けない方については、睡眠状況を観察・記録し、Drと相談したり、個別ケアで対応している	○	なるべくなら薬に頼らずに安心して気持ちよく眠れるよう、日常生活の充実・活性化を図っていきたい
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩だけでなく、入居者の楽しみや気晴らしとしてボランティアに協力して頂き、日舞や民謡・マジック等の催しを開催している。また、毎月恒例となったパン教室も好評。日常生活の中でその方の出来る事・出来そうな事の把握に努め、出来るだけ自分の事を自分で行うことにより達成感を感じ、意欲につなげている	○	促しや働きかけが入居者の負担にならないよう十分配慮していきたい
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は同意書を得た上で現金所持されている。仕舞いこみ・盗られ妄想等が出てきた際には、家族と相談しながら対応を決めている。殆どの方は立替対応だが、現金を渡し、買い物を楽しまれている方も多い。	○	その方の状況に応じて、家族・本人と相談の上対応していきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節の催し(初詣・花見・盆踊り・紅葉見物等)の外出支援をしている。また、家族と協力して昔馴染みの場所に行ったり、入居者数名と旅行に行ったり、外食会やピクニックにも行っている。散歩のついでに近隣への買い物にも出掛け、選ぶ・買う楽しみを少しでも感じていただけるよう支援している。あまり外出を好まれない方や身体的に負担が大きいという方でも、季節を感じ、気分転換を図って頂けるようにバルコニーや庭での食事会やお茶会を催している。	○	少しでも入居者が胸に秘めている気持ち・希望をふれあいを通じ引き出し、実現に向け家族と協力していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日常生活の会話やふれあいを通じ、本人の希望や思いを汲み取り、個別ケアとして行っている。	○	今後も入居者が家族と楽しい思い出作りが出来るようパイプ役となり、様々な企画を考えていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中お見舞いや本人の写真入の年賀状など、入居者から家族へ書いて頂いている。それ以外の友人・知人との手紙交換・電話なども自由にされている	○	今後も家族や友人・知人とのつながりが途切れないよう支援していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	これまで大切にしてきた馴染みの人との手紙交換や電話・外出・外泊も自由に出来る。面会の際にはその方のお部屋で気兼ねなくお茶を飲んだりお話を楽しんだりゆっくり出来るよう配慮している	○	今後も、面会者が気持ちよく過ごせるよう、居心地の良い雰囲気作りや対応をしていきたい
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動抑制・身体拘束は行っておらず、1人で外出してしまう方については外出傾向の把握・外出の察知に努め玄関にチャイムや鈴をつけたり、職員で行動把握に努めている。出て行ってしまった場合には、後からついて行く。記録にも残し、家族への報告もしている。外出時は必ず携帯を所持し、何かあったらすぐに応援を呼べるようにしている	○	暗くなってからの外出は懐中電灯を持参し、危険回避に十分に配慮していく。また、【介護保険法指定基準における禁止対象となる具体的な行為】の資料を常に見られるところにおいておき、意識していきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室の施錠はしていないので外出傾向のある方の行動把握に努め、玄関のチャイムや暖簾につけた鈴で外出の察知を行なっている。また、他者の居室に入ってしまうこともある為、他者とのトラブルは事前回避に努めている	○	夜間以外は施錠に頼ることなく、入居者が安心して生活出来るようさり気ない工夫を続けていきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	当日勤務者は昼夜共に、それぞれの入居者の心身状況や行動把握に努め、居室で過ごされている方でもドア越しに安否確認をすることで安全に配慮している	○	今後も心身状況や行動パターンに変化のある場合には職員間における情報交換・共有を行い把握していきたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	日中は入居者が自由に使えるように出している為、常に注意を払っている。夜間は数の確認をし、施錠出来る場所に保管している。(刃物・薬品類)タバコに関してもスタッフ側で保管しており、希望時に渡している。喫煙中は傍を離れず、会話をしながら何気なく見守っている	○	今後も入居者の状況に応じ対応していきたい
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの事故防止については、過去の事故報告書を参考にして防止策について話し合っている。また、火災予防チェックリストに沿って点検し、火災防止に努めている	○	転倒・窒息・誤薬の対応方法を医師や看護師から学び、急変時に備えていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	火災初期消火や避難訓練が年2回しか出来なかった。	○	消防署立会いで初期消火・避難訓練・応急手当の訓練を年2回以上を目標に実施していきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	具体的な内容は決まっていない	○	自治会・近隣住民と運営推進委員会を機に、協力を得られる関係作りに取り組んでいく
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	見学・相談、入居契約の際だけでなく、状況変化に応じてその都度起こり得るリスクを家族に説明した上で、少しでも伸び伸びと色んなことにチャレンジする機会を設けている。	○	今後も、日常生活において監視・管理・抑圧されているというような感情を入居者が感じないよう、さり気ない支援・見守りを行っていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・昼・就寝前とバイタルチェックを行っており、ひとりひとりの症状変化の早期発見に努めている。異常と思われる場合は、主治医や訪問看護に指示を仰いでいる。	○	今後も随時、主治医や訪問看護との連携を密に保ち、入居者の体調変化に対応していきたい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用量・副作用・注意事項はノートを活用し周知徹底を図っている。処方時の薬袋は薬名・用量が記入してあるので、そのまま使用。各自の個人Boxで保管。夜勤者が翌日の薬準備の際と服薬介助する際に、名前・薬名・用量をきちんと確認し、ひとりずつ服薬介助。飲み込むまで確認している。	○	入居者名・薬名・用量を確認し、誤薬のないよう再三の注意を図っている。また、服薬責任者が飲み忘れのないよう確認もしている。症状変化も経過観察・記録・報告を行っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立も野菜を多く摂れるようアレンジしたり、盛り付けの工夫をしたりして自然に食べられるよう支援している。入居者の状態に適した食事形態で提供し、あまり水分を取りたがらない入居者には回数を分けてこまめに勧める工夫をしている。散歩等に出掛けることで、身体を働き掛けや、トイレでの排泄を習慣化している	○	今後も継続していきたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時や就寝前の口腔ケアは出来ている。自分で出来る方は促し、見守りを行っている。可能な方は毎食後のうがいも促している。	○	毎食後のうがい易いようリビングに流しを設置したので、促しを続けていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量はひとりひとり確認し、チェック表に記録しており、摂取量が少ない場合には、時間にこだわらず本人の好む食物や水分で補足を促している。入居者の状態に応じて食事形態や摂食介助を行なっている。食べ方の混乱や食べこぼしに対するフォローもさり気なく行っている。また、冷蔵庫にある麦茶を好きな時に飲んだり、自由にポットが使用できるようにしている。	○	今後も、摂食介助は【自分で】という気持ちを大切にしながら行っていきたい
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	リスク対応マニュアルに記載されており、それに沿って対応している。最新の資料・対応方法が更新される度に差し替えている。発症期間間近になったら、リスク対応マニュアルの再確認や注意を払うよう指示している	○	リスク対応マニュアルの記載通りに徹底されているかどうかを監督していきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用した食器・布巾・雑巾等はピューラックスで消毒し、まな板・包丁は使用前に熱湯消毒をしている	○	リスク対応マニュアルの記載通りに徹底されているかどうかを監督していきたい
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先やバルコニー、庭に花を植えたり、ベンチやテーブルを置き、親しみ易い雰囲気になっている。バルコニーテラスも完成し、くつろぎの空間が出来た。散歩中の人や子供達と今までより近い位置で会話が出来、交流を楽しまれている。	○	交流が深まるよう支援していきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が落ち着いて過ごせるよう光や音にも配慮し、生活感や季節感を意識した飾りつけを入居者と相談しながらしている。廊下には入居者の作品や行事の写真を掲示し、面会にいらした家族も一緒に見て頂けるようにしている	○	今後も更なる工夫に努めていきたい
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルを3つに分割し、気の合う方同士で調理をしたり、楽しく会話や食事が出来るよう配慮している。リビングには大きなソファやひとり掛けの椅子を複数設置し、好きな場所でゆっくりとくつろげるようにしている。また、廊下の端にも椅子を置き、1人になってのんびり出来るようにしている。	○	今後も皆と過ごす時間・一人でゆっくりしたい時間両方を大切にしつつ、孤立感・孤独感を感じさせないように配慮していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂いている。少しでも住み慣れた生活環境に近付け、安心して居心地良く暮らして頂けるように配慮している。	○	状態に応じて入居者が居心地良く安心して暮らせる環境を家族と相談しながら、整えていく
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はこまめに行っており、臭気や空気よどみがないよう配慮している。温度調整も室内にある温度計を確認しながら、外気温と大きな差が出ないように調整している。(夏:25度・冬:22度)	○	状況に応じこまやかな調節をしていく
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に応じて、少しでも自分で出来ることを安全に配慮しながら支援している。	○	ひとりひとりの身体機能の状況変化に応じて、対応方法を変えていく
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の入り口に写真や手作りの表札を掲げたり、トイレには【便所】と貼紙をしている。場所間違いや分からないことでの混乱を最小限にとどめる工夫をしている。	○	混乱や失敗を少しでも回避できる環境を整えたり、さり気ない気遣いで対応していく。また、家庭的な環境を壊さないよう十分配慮している
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先やバルコニーテラス、庭に花や野菜を植えたり、ベンチやテーブルを置き、ひなたぼっこをしたり、青空昼食会・お茶会などを催している。花植えや野菜の収穫、ベンチのヤスリがけやペンキ塗り、芝刈りも入居者と相談しながら一緒に行っている。	○	今後も入居者と一緒にご相談しながら色々作っていきたい

V. サービスの成果に関する項目		1F	
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

\* 自家菜園で入居者と一緒に作った旬の野菜を皆で収穫したり、料理して食べている。また、農業をして来た入居者に色々教えて頂き野菜作りに励んでいる。畑で収穫出来たジャガイモやサツマイモを近隣の方におすそ分けしたり、近隣のグループホームに差し入れし、交流を深めている。

\* ホーム横に庭に夏野菜を植え、成長を廊下の窓から眺めたり、気軽に収穫出来ている。また、花壇を造ったりしてくつろぎの庭となっている。ホーム周辺をぐるりと散歩して来た後、庭でお茶会をしたり、時折遊びに来る近所の猫を観察したり。希望する入居者と芝刈りも行っている。夏祭りも庭で開催出来、たくさんの家族・近隣の方・交流のあるグループホームの方々も遊びに来て下さった。今年度は庭の広いスペースで家族・入居者・ボランティアの方も一緒に盆踊りやスイカ割りも楽しむ事が出来た。

\* 手作り味噌や梅干作り・ぬか漬けやらっきょう漬け等も恒例企画として定着しており、昔からの経験・知恵をおおいに発揮して下さっている。また、ほぼ毎月パン教室を開催することが出来、1F2F合同でワイワイとパン作りを楽しまれている。近隣の保育所との交流も続いており、お散歩に行く途中ホームの前を通ると元気に声を掛けてくれ、入居者も元気を貰っている。

\* 入居者から「旅行に行きたい」との希望や「昔住んでいた場所に行ってみたい。」という希望があり、企画段階から入居者と共に日程やコースを考え楽しんだりもしている。